

「共生社会の形成に寄与する学校を目指して」

比内支援学校 教頭 加藤 宏和

今年度も、本校のセンター的機能を活用していただき、ありがとうございました。本校の教育専門監や地域支援の担当職員からは、「特別支援教育に関する研修を実施する学校が昨年度よりも多かった」や「学級経営等において、子どもたちの多様性や個性を大切にする取組が多く見られた」などの声が聞かれ、うれしく感じているところです。多様な相談や要請に応え、地域における子ども一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実に努めてきたところですが、各学校（園）における特別支援教育の校内支援体制の機能強化につながるよう、今後も推進してまいりたいと考えております。

さて、今年度、本校では、「共生社会の形成に寄与する学校」を重点の一つとして取り組んできました。「交流および共同学習」では、本校職員が交流先に出向き「障害理解授業」を行わせていただき、相手校の学級担任とともに授業をつくらせていただきました。「『優しくポジティブな言葉掛け』など相手の立場に立った子どもたちの言動が多く見られた」や「共生社会に向けて『互いを理解しあう』ことができた」などの感想を交流先の学校からいただき、とてもうれしく感じたところです。また、昨年9月に行われた「竣工式典」では、大館桂桜高等学校の吹奏楽部の皆様の演奏により、本校児童生徒が秋田県民歌などを披露させていただきました。さらに、地域と共催で行っている「夏祭り」ではボランティアとして大館市内の高校生に夏祭りの運営に携わっていただき、本校の児童生徒のことや新校舎に関する事などを知っていただく貴重な機会となりました。

子どもたちはいずれ成長し、地域社会の担い手となります。その担い手となる子どもたちと、大切にしたいことを共有しながら交流活動を行うことにより、お互いを尊重し合い、誰もが平等に参加できる社会について学ぶ機会になり、インクルーシブな社会の形成に大きく関わると考えております。関わってくださった各園、小・中学校、高等学校、地域の皆様方におかれましては、趣旨を御理解いただき、ともに活動してくださったことに深く御礼を申し上げます。今後とも、どうかよろしくお願いたします。

本校のセンター的機能の取組

～幼保こども園・小学校・中学校・高等学校への支援～

地域の特別支援教育のセンター的役割として、幼保こども園・小学校・中学校・高等学校を訪問し、各校（園）のニーズに応じた支援取組を行ってきました。

比内支援学校（本校）の地域支援部及び教育専門監の各校種への支援回数及び内容は、次のとおりです。

| 校種 | 校（園）数 | 回数 訪問・来校 | 内容 |
|--------|-------|-------------|--|
| 幼保こども園 | 12園 | 39回 | 保育参観 発達支援会議 職員研修会 保護者研修会 運動遊び |
| 小学校 | 11校 | 58回 | 授業参観 ケース会議 保護者相談 保護者研修会 職員研修 障害理解授業 ペアレントトレーニング研修 |
| 中学校 | 4校 | 10回 | 授業参観 校内支援委員会 ケース会議 障害理解授業 発達検査 |
| 高等学校 | 4校 | 16回 | 授業参観 校内支援委員会 ケース会議 保護者相談 職員研修会 発達検査 |

支援内容①◆各校種への相談・支援

幼保子ども園：子どもの行動の背景を参加の先生方と一緒に考え、支援内容や役割分担をケース会の中で共有しました。園に年3回程度訪問し、訪問時には、指導・支援を行ってみたいの子どもの変容について確認し、次の目標設定や支援内容の改善につなげていく等、1年間の中でPDCAサイクルで指導・支援を見直す園内体制が充実してきている園が多くありました。

今年度は保護者対象の研修依頼が多くありました。参加した保護者から「自分に余裕がないときほど一歩立ち止まって子どもの成長を見ていきたい。」「日常さりげなくしていたことが子どもの成長につながることを再確認した。」等の感想がありました。

小・中学校：授業参観やケース会議、校内委員会に参加しました。本校の授業例や環境を整理するための教材等を紹介しました。一人一人の児童生徒の得意や好きを大いに取り入れた授業実践により、教室からの飛び出しが減り、学習活動に意欲的に取り組むことが増えたケースがありました。

高等学校：特別支援教育コーディネーターを中心に、管理職のサポートにより、特別支援教育の年間計画に沿った校内支援を展開する学校が多くあります。特別な支援が必要な生徒について、実態や支援内容を一覧にして職員で共有したり、気になる行動や変化に担任が気付いたときに、コーディネーターに相談したりする等チームで対応する事例も増えています。

支援内容②◆障害理解授業の取組

居住地校交流や交流及び共同学習を今年度は18校で32回実施しました。

居住地校交流や学校間交流の事前学習として障害理解学習を15回実施し、本校の取組を紹介したパネルの貸し出しもしました。交流当日は、障害理解授業での内容をもとに、「本校児童生徒と仲良くなるポイントを実践しながら積極的に関わろうとする姿が見られた。」「交流学年以外の子どももパネルを見ていた。」との感想をいただいています。

また今年度は、小学校で発達障害についての障害理解授業を実施しました。児童からは「目には見えなくても困っている人がいることを知った。」「困っている人には自分から声を掛けたい。」といった感想がありました。

本校に在籍する児童生徒の学びだけではなく、障害のない子どもにとっても、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ機会となります。次年度もぜひ御活用ください。

支援内容③◆研修会の実施

「子どもの発達と子育て」「メディアと子育て」「ティーチャーズトレーニング」「高等学校において困難さの背景の推測から支援方法を考える」等、各校（園）のニーズに応じて、職員研修会及び保護者研修会を実施しました。

また、高等学校特別支援チームと大館桂桜高等学校との共催で、秋田障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 中村絢子氏を講師に「就職を目指した進路選択や自己理解に向けた支援」についての講演会を実施しました。また、地域研修会では、弘前大学教職大学院准教授藤江玲子氏を講師に「子どもの支援に生かすストレスマネジメント」をテーマにした講演会を実施しました。

今年度の御協力ありがとうございました。次年度も、児童・生徒及び保護者への支援者の一員として、関わらせていただければと思っております。 文責 教育専門監 藤田久美子

相談・見学等の希望がありましたら、御連絡ください。

秋田県立比内支援学校 教頭 加藤 宏和 教頭 布田美香子
教諭（兼）教育専門監 藤田久美子
特別支援教育コーディネーター 根本 陽子

TEL0186-55-2131 FAX 0186-55-2132

E-mail: hinai-s@akita-pref.ed.jp

